

第9回 科学隣接領域研究会（2019.4.4）

科学と倫理 –その6–

「3.11 以後の科学技術の社会倫理」



第9回科学隣接領域研究会について

日時：2019年4月4日（木）10：00～13：00

場所：日本科学協会会議室（東京都港区赤坂1-2-2 5F）

参加者（敬称略）

科学隣接領域研究会	リーダー	金子 務（大阪府立大学 名誉教授）
	サブリーダー	酒井 邦嘉（東京大学大学院総合文化研究科 教授）
	メンバー	前野 隆司（慶應義塾大学大学院 SDM 研究科 教授）
		正木 晃（慶應義塾大学文学部 非常勤講師）
	”	廣野 喜幸（東京大学大学院総合文化研究科 教授）
特別講師		野家 啓一（東北大学 名誉教授）
事務局	会長	大島 美恵子
	常務理事	石倉 康弘
	業務部マネージャー	浅倉 陽子
	” スタッフ	堀籠 美枝子

資 料

- ・野家先生資料「3.11 以後の科学技術の社会倫理」資料
- ・事務局資料 事業計画、「科学と倫理」セミナー企画参考資料
科学新聞（「人間中心」AI 活用）コピー、酒井先生・岡本先生講座等について紹介資料

内 容

◆大島会長のご挨拶

◆事務局から事業計画についての説明

前回研究会（2018年1月）から久しぶりの開催となり、研究会再開にあたり、新体制の報告と資料「事業計画」を基に、「科学隣接領域の研究事業」の事業概要と今後の計画について説明をしました。

◆金子先生のご挨拶

特別講師としてご講義いただく野家先生は、仙台の高名な科学哲学者で、日本哲学会の会長を歴任されており、3月で東北大学を退官され名誉教授になられたとご紹介されました。

また、研究会の事業計画について、現在計画全体の中腹に差し掛かっているところであり、「科学と倫理」研究会については、廣野先生、前野先生、鈴木先生、神崎先生、須田さんにご講義いただいております。酒井先生にご尽力いただいている「科学者三原則」については、今後大島会長、石倉常務と相談の上、公式に発表を検討したいと考えている旨お話しされました。

◆野家先生特別講義「3.11 以後の科学技術の社会倫理」と質疑応答

本日の講義は、研究者倫理というよりは、科学と社会の関係、社会倫理という方面からの話になると最初にお話しされました。3.11 では自宅が全壊になり被災者となり、そこで科学技術と社会の問題を考えさせられるところがあったそうです。前半は、科学の歴史をたどりながら、科学と社会との関係がこれまでどういう形で展開されてきたかという話をされ、後半は、3.11 東日本大震災と原発事故以降、科学と社会との関係、世代間倫理から今後考えるべき事柄をお話しいただきました。

最後に、現代における問題について「トランス・サイエンス※」と「リスク社会※」というキーワードをお示しになり、軍事技術と科学技術の境界がないデュアルユースの時代において、科学コミュニケーションとリスクコミュニケーショ

※無断転載・複写はご遠慮ください。

ンが一体となって、科学技術のシヴィリアン・コントロールの時代にはいったと考えられており、R I S K（信頼性 (Reliability)、世代間倫理 (Intergenerational Ethics)、社会的説明責任、(Social Accountability)、知識の製造物責任 (Knowledge-Product Liability) の頭文字をとった行動規範) をこれからの社会倫理として提唱されているとお話いただきました。

講義終了後質疑応答があり、活発な議論が交わされました。

※トランス・サイエンス・・・アメリカの核物理学者 A.ワインバーグが提唱した科学社会学上の概念。科学なしには解決できないが、科学だけでも解決できない問題を指す。例えば環境問題や原発問題。

※リスク社会・・・ドイツの社会学者 U.ベックが提唱した社会概念。近代社会における政府の役割は貧富の差の解消であったが、第二の近代ではリスクの分配が国家の課題となる。

◆「科学と倫理」セミナー企画

「科学と倫理」セミナー企画参考資料を基に、今までの「科学と倫理」研究会での内容と前回のセミナーを振り返り、企画内容について検討しました。議論の結果以下について決定し、時間の関係で次回研究会にて引き続き検討することになりました。

(決まったこと)

- ・開催日程については、10月を検討（10/26（土）または10/27（日）が有力候補）
- ・セミナー名については、「木魂する科学とところ—科学と文化の交差点 倫理思想篇—」が案として出た
- ・基調講演は、本日特別講師の野家啓一先生

◆事務連絡

次回研究会 2019年5月14日（火）13：00～

※本日欠席メンバーには別途連絡する

以上